



平成21年度
「体験型海外教育実地研究」
参加者による開発教材集

平成 22 年 1 月

広島大学大学院教育学研究科
広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト研究センター

目 次

1. 第3学年 総合（異文化理解） Let's enjoy Hinamatsuri!
教育学研究科博士課程前期学習科学専攻カリキュラム開発専修 日高 悠子 …… 1
2. 第3学年 異文化理解 三文字熟語で表現しよう
教育学研究科博士課程前期学習科学専攻カリキュラム開発専修 古市果菜絵 …… 7
3. 第4学年 学級活動 What is your treasure?
東広島市立三ツ城小学校 教諭 高谷 直樹 …… 13
4. 第5学年 異文化理解 What are there annual events?
教育学研究科博士課程前期学習科学専攻カリキュラム開発専修 安田知佐子 …… 21
5. 第6学年 異文化理解 Let's make onomatopoeia!
教育学研究科博士課程前期言語文化教育専攻国語文化教育専修 小笹 由花 …… 29
6. 第8学年 体育 SAMURAI Mind
教育学研究科博士課程前期生涯活動教育学専攻スポーツ教育学専修 竹内 俊介 …… 37

※教科等名は、参加者（授業者）側から付したものであり、授業を実施した当該校にとっては教育課程外の投げ入れ授業として位置づけられるものである（一部を除く）。

体験型海外教育実地研究 -第3学年総合 Let' s enjoy HinaMatsuri! -

教育学研究科学習科学専攻初等カリキュラム開発専修 日高 悠子

1 はじめに

国際化の進む現在、新学習指導要領では小学校にも英語の時間が導入され、今では小学校教師も英語は苦手だから…といえるような状況ではなくなった。小学校での英語教育の目標はコミュニケーションの素地を養うことである。しかし私自身はどうであるかと考えたとき、苦手な英語でコミュニケーションを行うことを困難に思う気持ちがあった。そこでまずは自分がコミュニケーションの力をつけるために、英語で日本の文化を伝える授業をしてみよう！という思いから、体験型海外教育実地研究に参加した。

2 実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	泊
5/7	木	1440-1600 C505	渡航までの日程や書準備の確認	授業研究テーマの設定方法
6/4	木	1440-1600 C505	授業研究テーマ案の交流	
7/9	木	1440-1600 C505	学習指導案の検討	
7/30	木	1440-1600 C526	学習指導案の検討	渡航準備
8/27	木	1440-1600 C505	学習指導案の検討および教材・教具の作成	渡航準備
9/3	木	1440-1600 C505	学習指導案の検討および教材・教具の作成	渡航準備
9/9	木	1440-1600 C505	事前打ち合わせ	
9/12	土	広島-成田 0745-0925 NH-3128 成田-ワシントン 1110-1045 NH-2 ワシントン 1344-1448 ローリー UA-7183		
9/13	月	City Hotel→Each School	学校訪問 Einhurst E. S. Wahl-Coats E. S. C. M. Eppes J. H. S 事前準備及び打ち合わせ	米国ノースカロライナ州 Greenville City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL (877) 271-2616 Toll Free (877) 271-2616
9/14	火	City Hotel→Each School	East Carolina University 授業実践	Greenville 同上

9/15	水	City Hotel→Each School	Elmhurst Elementary School 学校訪問	Greenville 同上
9/16	木	City Hotel→Each School	学校訪問	Greenville 同上
9/17	金	ローリー 1245-1350 ワシントン UA-7374		米国ノースカロライナ州 Raleigh Raleigh Marriott Crabtree Valley 4500 Marriott Dr., Raleigh, NC 27612 TEL (919)781-7000 FAX (919)781-3059
9/18	土		アメリカ文化学習	Washington DC Beacon 1615 Rhode Island Ave, NW, Washington, DC 20036 TEL (202)296-2100 FAX (202)331-0227
9/19 9/20	日 月	ワシントン 1220-1520 成田 NH-1 成田 1725-1900 広島 NH-3129		Washington DC 同上 機中泊
9/21	火			
10/12		事後指導 発表会		

3 実地研究授業

3.1 単元等名 第3学年総合 Let' s enjoy HinaMatsuri !

3.2 事前準備

海外での実践ということで、自文化を通して“何か”をアメリカの子ども達に伝えることができればいいなという漠然とした思いを持っていた。しかし、具体的に何を通して、どんなことを伝えるのか？ということにははっきりと決まっていなかった。しかし、せっかくアメリカの子ども達も自分達とは違う日本の文化を体験するのだから、子ども達のかたちにかたみにのこるような実践にしたいという思いがあった。そこで、作る活動にしようということは最初に決めていた。

では、何を伝えようか？それが次の課題になった。日本の伝統文化について調べていくうちに、日本の伝統行事には子どもの成長や健康、幸福を願うものが多いということに気が付いた。

多くの子どもに関する伝統行事があるということは、その背景に子どもの成長や健康、幸福を願う強い親の気持ちがかかっていると考えた。子どもの成長や健康、幸福を願う強い親の気持ちは、アメリカの子ども達にも受け入れやすいと考え、子どもに関する日本の伝統行事を通して、伝統行事には人々の思いや願いが込められていることを伝えたいと考えた。また日本の伝統文化にも親しんでほしいと考えていた私は、雛祭りを選んだ。

また、雛人形は鮮やかなキモノを着ていて異国的で美しいため、子ども達の日本文化に対する興味関心を高めることができ、作り終わった後も飾って置けるという点からも雛祭りにしようと考えた。

しかし、アメリカの子どもがあまり作る活動が得意ではないという話を聞き、その作成過程も工夫する必要がでてきたため雛人形の準備には大変苦労した。作成した雛人形は髪、顔、胴体が脱着式になっており、好きな柄の千代紙で着物を作るようになっている。お内裏様かお雛様かは自由に選べるようにした。顔、胴体、髪や烏帽子、扇や勺は事前にすべて私が作ってアメリカに持っていった。

3.3 学習指導案

Lesson Title: Let's enjoy Hina-Matsuri!

Lesson Author: Yuko Hidaka

Date: September 2009

Grade Levels:3

Subject: Culture

Description: In this lesson, students know Hina-matsuri and They make Hina-dolls.

Goal: This lesson will encourage to students to understand traditional event of other country. It will also help students develop a interesting foe their own traditional event and culture.

Objectives

- 1 Understand Japanese traditional culture, Hina-matsuri.
- 2 Enjoy making hina dolls.
- 3 Understand Other countries have their own culture and be interested in it.

Materials, Resources and technology: picturers about Hina-Matsuri, Chiyo-gami, hina dolls, audio

Procedure:

Activity	Attention	Evaluation
1 Know about Hina-Matsuri.	1 Explain Hina-Matsuri” by show some cards of Hina-Matsuri, and Tell today's activity;make Hina dolls and show it to class mate. • The Japanese have the Doll Festival on March 3.	Watch the students' reactions.

	<ul style="list-style-type: none"> • It's the day to pray for healthy growth and happiness for young girls. 	
2 Understand how to make hina dolls.	2 Explain how to make Odairi-sama (The Emperor) and Ohina-sama (The Empress) .	
3 Chose one want to make, Odairi-sama (The Emperor) or Ohina-sama (The Empress) ,and make it.	3 Help children who can't make their hina doll.	
4 Show their own hina doll to class mate and display their dolls on hina-dan. (photography)	4 Comment children's works and display it on hina-dan.	
5 Understand other country peoples have their own cultures.	5 Tell many other coutries have various cultures in this world.	

3.4 授業の実際

授業の導入では、まず本時のテーマを示し授業内容を説明した。はじめに「HinaMatsuri」の紹介を行い、その後作り方の説明をし雛人形を作って、作った雛人形をひな壇に飾ってみんなで写真をとることを伝えた。

展開の前半部では、「HinaMatsuri」の紹介をした。雛祭りについてまとめたプリントを配布し、雛人形やひな壇、ちらし寿司などの写真をみせながら、「HinaMatsuri」は2月に子ども達の健康で幸福な成長を願って行われる日本の伝統行事であり、ひな壇に雛人形を飾って祝うことを説明した。その後雛人形の作り方を説明し、雛人形を作成した。それぞれ思い思いの人形の顔を書き、好きな折り紙の柄を選んで着物を作っていた。

雛人形完成後、教卓にひな壇と屏風を設置した。児童達に自分の作った雛人形と、その横に自分の名前を書いたネームプレートをひな壇に並べさせ、バーバラ先生と子ども達と一緒に写真撮影を行った。

その後、日本には雛人形のような様々な伝統行事があること。その裏には様々な人々の思いや願いが込められていること、そして外国の文化にも興味を持って欲しいということを伝え、

記念に金平糖をプレゼントして授業を終えた。なお、雛人形を作った際、先生方や他のメンバーにサポートに入ってもらいながら授業を行った。

3.5 考察

まず授業の成果について述べる。日本の雛祭りについて説明するところでは、雛人形の写真を見せると「beautiful」という言葉が聞かれ、児童達は普段触れることのない日本の文化に、興味を持っている様子だった。私の拙い英語で児童たちがどの程度まで雛祭りについて知ることができたのかは確認できなかったが、写真を用意したことで説明の拙さをカバーし、児童たちに雛祭りへの興味を持たせることができた。

雛人形づくりも、工作が苦手な児童は嫌がるかと思ったが、それぞれ一生懸命に取り組んでいる様子がみられた。全員自分の雛人形を作ることができ、最後に自分の雛人形と写真撮影をすることができた。

また、最後にみんなの雛人形をひな壇に飾って写真撮影を行うことによって、児童たちにもいい記念になったと思われる。

余りの材料をすべて残してきたので、それを使って雛人形を授業後も作ることができると考えられる。

授業を通して、児童は「HinaMatsuri」を楽しんでいる様子だった。雛人形を作るときには、「もうひとつ作りたい。」と言ってくる児童や、自分の作った雛人形を他の児童と見せ合って笑っている児童もいた。最後に「Did you enjoy HinaMasuiri?」と聞くと、児童は元気に「Yes!」と答えていたため、日本の文化に興味を持ち、楽しんで活動に取り組めたと考えられる。児童にとってよい異文化体験になったのではないだろうかと思われる。

課題としてはいろいろあったが、次の三点があげられる。

- ① 授業の目的を児童に伝え切れなかった点。授業者の英語での雛祭りの説明が不十分だったため、何のために日本人が雛祭りを行うのか児童におさえさせることができなかった。
- ② 授業者の雛人形の作り方の説明が不十分だった点。児童が混乱している様子が見られたため、作る活動のときは、どのように手順を説明したら分かりやすいのかもっと考えておく必要があった。
- ③ 授業の組立が甘かった点。もっとアメリカの行事との比較等を組み込んだりするとより児童の理解が深まったと考えられる。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

授業中の発問及び指示を吟味し、教材・教具の準備を念入りにすることの重要性を、まったく日本語の通じない相手に対して、英語が不得意な授業者が授業を行うことを通して身をもって学んだ。本授業は雛人形作りに取り組んだが、いかに簡単に作ることのできる雛人形を準備するかということについて、試作品をかなりの量を作りつつ試行錯誤した。日本語での指示が通用する学習者相手だったら、ここまではしないだろうというくらい教材開発を重ねた授業になった。また、いかに分かりやすく説明するかという点についても、言葉のセンテンスを短くして図を多用したり、写真等のメディア教材を用意するなど工夫を重ねた。

しかし、これらの努力は日本の児童に対してもすべきであり、今まで指示が通じるからと児童に甘えていた自分を改めて再認識し、日本での授業実践でも教材開発や指示、説明の工夫に努めていきたいと考えた。

4.2 自分自身についての変容

英語で授業をするというプレッシャーがあり、授業の準備も大変で何度も挫けそうになったが、無事やり遂げたことで自分にとって大きな自信になった。

また、言葉が不自由でも伝えたいという気持ちがあれば、何とかなるということ強く感じた。アメリカの学校や町で言葉が通じなくて困ったこともあったが、自分の気持ちを相手に伝えようと努力すると、相手も分かろうとしてくれたり、周りの人が助けてくれたため、あきらめずに伝えるということが大事なのだと学んだ。

英語でのコミュニケーション能力に不安を持っていたが、この海外型海外教育実地研究をおえて、自分のコミュニケーション能力に少し自身を持てるようになった。

4.3 グローバルマインドに関する変容

この体験型海外実地研究は、アメリカの子ども達にとっても私にとっても異文化交流の授業になった。異文化交流を通して、自文化の何を伝えるのかということを考えたり、調べていくうちに自文化への認識が深まったと感じた。異文化交流について、私は異文化について学ぶというイメージを持っていた。しかし実際に異文化交流を行ってみると、自文化について意外と知らない自分を再認識し、相手に伝えるために自分の文化をもう一度みなおすという機会をもつことができた。相手の文化についても自分の文化についても学ぶことができた。

異文化交流を通して相手の文化を知ること重要だが、異文化交流を通して自分の文化を見直す、これも異文化交流の大切な側面ではないかと思う。アメリカの子どもたちも、日本の文化に触れて、じゃあ自分達の国にも同じようなもの、違うものがないのかな。という思いをもってくれば、授業者としてとてもうれしいと感じる。

5 おわりに

初めは、授業の準備や英語で授業することはそんなに大変ではないだろうという思いがありました。しかし、異文化の子ども達に授業をするためには、教材や教具の準備や授業の計画をかなり念入りに行わなくてはならないと気づいたとき、なんて大変なものに申し込んでしまったんだろうと少しばかり後悔しました。しかし、先生方にアドバイスをいただいたり、一緒に授業をした皆で励ましあいながら授業実践を終えたときには、様々な大切なものを得ることができたと感じました。実地研究を終えた今では、申し込んで本当によかったと思っています。サポートをしてくださった先生方や授業者の皆さんには心から感謝申し上げます。